

科目名 キャリアデザイン論  
Title Career Design  
科目区分 地域づくり基礎科目

准教授 若林 隆久 (ワカバヤシ タカヒサ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次  
2

単位区分  
選択

単位数  
2

開講時期  
前期

## 目的

キャリアは誰にとっても関わりのある事柄です。様々な環境の変化に伴い、キャリアは多様で複雑になると同時に、自由で自律的なものになってきています。キャリアとは何か、キャリアを取り巻く環境、求められる資質・能力、就職活動/採用活動、学校から社会への移行、学び方や学ぶことの意義、といったキャリアに関する事項を学びます。単に机上の知識として学ぶだけでなく、自らに引き寄せて考え、大学生活を有意義に過ごしたり社会に出てから活躍したりするための一助となればと思います。

## 達成目標

本講義の到達目標は以下の2点です。

1. キャリアに関する基礎的な知識、概念、専門用語、考え方を身に付ける。
2. 自らのキャリアについて主体的に考え、行動できるようになる。

## スケジュール

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 キャリアとは何か
- 第3回 キャリアを取り巻く環境
- 第4回 求められる資質・能力
- 第5回 就職活動/採用活動
- 第6回 自己理解・自己分析
- 第7回 大学生活の過ごし方
- 第8回 経験から学ぶ
- 第9回 人との関わりから学ぶ
- 第10回 企業内のキャリア
- 第11回 境界を越えたキャリア
- 第12回 地域におけるキャリア
- 第13回 ケーススタディ①
- 第14回 ケーススタディ②
- 第15回 講義のまとめ・振り返り

## 教科書・参考文献

教科書 教科書は定めず、毎回講義資料を配布します。

参考書 講義開始時および講義の進行状況に応じて、適宜紹介します。

## 授業外での学習

授業内容について、内容を習得できているかを問う確認テストや、内容を踏まえて自分にあてはめて考えたり行動計画を考えたりする課題などを実施します。指定された期限までに提出・合格してください。また、自分が大学生活を有意義に過ごしたり社会に出てから活躍したりするために必要なことを考え行動してください。

## 評価方法

講義内で実施する提出物が約半分、期末試験(ペーパーテスト and/or レポート試験)が約半分を想定していますが、詳細については履修人数を踏まえて講義内で指示します。

## 履修上の注意

詳細については、履修登録期間が近づいたら教員ウェブページ ([https://www.wakabayashi-network.com/entry/career\\_design\\_2021-syllabus](https://www.wakabayashi-network.com/entry/career_design_2021-syllabus)) や教員のTwitter ([https://twitter.com/wakabayashi\\_net](https://twitter.com/wakabayashi_net)) で確認してください。必要に応じて、適宜授業に関する情報発信を行う予定です。

科目名 経営分析  
Title Business Analysis  
科目区分 地域づくり基礎科目

准教授 若林 隆久 (ワカバヤシ タカヒサ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

| 配当年次 | 単位区分 | 単位数 | 開講時期 |
|------|------|-----|------|
| 2    | 選択   | 2   | 後期   |

## 目的

経営分析の基礎的な知識、概念、専門用語、考え方を理解し身につけることが目的です。経営者、従業員、顧客、投資家、取引先といった様々な立場において、経営分析の知識や考え方は有用です。そのため、企業の経営者となったり、株式投資を行ったりしなくても、働いたり生活したりするうえで、経営分析の知識や考え方は役に立ちます。また、経営分析を学ぶことで、企業や経営についての理解を深められます。身近な事例や企業の事例を取り上げながら講義を行い、経営分析を学び現実に適用できるようになることを目指します。

## 達成目標

本講義の到達目標は以下の3点です。

1. 経営分析の基礎的な知識、概念、専門用語、考え方を記述・説明できる。
2. 現実の企業や組織の経営数字に対して、指標を算出してその意味を説明できる。
3. 学んだ内容を（たとえば自分個人のファイナンシャル・プランや就職先とする企業の選択など）自分個人と

## スケジュール

- 第1回 インタロダクション、経営分析の視点：基本となる3つの考え方
- 第2回 企業とは何か、企業の目的・活動
- 第3回 財務諸表、企業の仕組み・資金調達・利害関係者
- 第4回 投資意思決定
- 第5回 PDCAサイクルと目標の設定
- 第6回 損益分岐点(1)
- 第7回 損益分岐点(2)
- 第8回 利益と現金のズレ：減価償却費、掛取引、引当金
- 第9回 キャッシュフローの分析
- 第10回 分析のフレームワーク
- 第11回 収益性の分析
- 第12回 安全性の分析
- 第13回 生産性の分析
- 第14回 将来性の分析
- 第15回 講義のまとめ・振り返り

## 教科書・参考文献

教科書 太田康広(2018)『ビジネススクールで教える経営分析』日本経済新聞出版社。

参考書 講義の進行にあわせて、適宜紹介します。また、多数の書籍が出版されている分野なので、自分にとってわかりやすいものを活用してください。

## 授業外での学習

各回や各ブロックの内容を習得できているかMicrosoft Formsを用いた確認テストなどを実施します。指定された期限までに合格してください。また、学んだ内容の活用を目指すので、関連する事柄について、新聞、ニュース、本・論文、Web上の記事、企業のホームページなどで情報収集し自分なりに考える習慣をつけてください。

## 評価方法

各回の確認テスト(約30~40%)、各ブロックの確認テスト(約30~40%)、課題(約30~40%)で評価します。

## 履修上の注意

詳細については、後期の履修登録が近づいたら教員ウェブページ([https://www.wakabayashi-network.com/entry/keiei\\_bunseki\\_2021-syllabus](https://www.wakabayashi-network.com/entry/keiei_bunseki_2021-syllabus))や教員のTwitter([https://twitter.com/wakabayashi\\_net](https://twitter.com/wakabayashi_net))で確認してください。必要に応じて、適宜授業に関する情報発信を行う予定です。

科目名 オペレーションズ・リサーチ  
Title Operations Research  
科目区分 地域づくり基礎科目

担当教員  
准教授 高橋 美佐 ( タカハシ ミサ )

担当教員との連絡方法

E-Mail

| 配当年次<br>2 | 単位区分<br>選択 | 単位数<br>2 | 開講時期<br>前期 |
|-----------|------------|----------|------------|
|-----------|------------|----------|------------|

## 目的

企業や地域など組織や集団では、日常的な運用の管理や計画にさまざまな問題が生じる。たとえば、何をどのくらい作ればよいか、材料をどのくらい用意すればよいか、新しい工場をどこに建てればよいかといった問題がある。組織（システム）の規模が大きくなり、関係する要素が多くなるほど、個人の経験や勘に依らない合理的判断をもとづく意思決定が必要とされる。このような問題に対して最適あるいは適切な解を見つけるために、オペレーションズ・リサーチ（OR）では、必要な情報を集め問題を図や数理モデルとして表現し、分析する。本講義ではORの手法の中で基礎的かつ広範に応用されているものについて、例題を通して、問題のモデル化、モデルの操作、解の解釈と応用の方法を学ぶ。

## 達成目標

講義でとりあげる各手法について、以下の点に到達することを目標とする。

1. 問題の状況と諸条件を適切にイメージする。
2. 例題をとおして、問題の設定から解法までの一連の流れと手法のポイントを理解する。
3. 他の適用事例や応用可能な状況を考える。

## スケジュール

| 回数   | 内容                | 講義の概要とすすめ方等                      |
|------|-------------------|----------------------------------|
| 第1回  | イントロダクション         | グラフ理論のはじまり、グラフとネットワーク、モデル化       |
| 第2回  | 一筆書き問題            | プロジェクトの日程計画、作業の所要時間と順序           |
| 第3回  | 日程計画・管理(PERT) (1) | プロジェクトの進捗管理、重要な作業は何か？(クリティカル・パス) |
| 第4回  | 日程計画・管理(PERT) (2) | 計画変更への対処、計画の見直し                  |
| 第5回  | 日程計画・管理(PERT) (3) | 「あちら立てればこちら立たず」、複数の評価基準、問題の階層化   |
| 第6回  | 階層的意味決定法(AHP) (1) | 一対比較による評価基準の定量化                  |
| 第7回  | 階層的意味決定法(AHP) (2) | 総合評価と再検討、感度分析                    |
| 第8回  | 階層的意味決定法(AHP) (3) | 線形計画問題とは、制約条件下の資源配分、制約と目的関数      |
| 第9回  | 線形計画法 (1)         | 数学モデルの特徴、図による解法、最適解の探索           |
| 第10回 | 線形計画法 (2)         | 感度分析(少し条件が変わったら?)                |
| 第11回 | 線形計画法 (3)         | MS-Excelのソルバー機能の使い方              |
| 第12回 | 線形計画法 (4)         | 輸送問題、割当て問題、施設配置問題                |
| 第13回 | 整数計画法             | ゲームのルールと戦略の意味決定-モンティホール問題を例として-  |
| 第14回 | 不確実性下の意思決定        |                                  |
| 第15回 | まとめ               |                                  |

## 教科書・参考文献

教科書 教科書は特に定めない。プリント等の資料を配布する。

参考書 松井泰子ほか『入門オペレーションズ・リサーチ』東海大学出版会、森雅夫ほか『オペレーションズ・リサーチ』朝倉書店、今野浩『数理決定法入門 キャンパスのOR』朝倉書店、適宜紹介する。

## 授業外での学習

授業後にノートや配布資料に目を通すとともに、小課題に取り組むなど復習に力を入れて学習内容の定着を図ること。特にトピックが引き続く授業回では、授業前に前回の内容を思い出すよう心掛け、欠席した場合には、配布資料を入手して欠席分の内容を補うよう努めること。

## 評価方法

小課題などの平常点(30%)、期末試験および中間レポート(70%)を基本的に総合的に判断して評価する。

## 履修上の注意

数理モデルといっても、1次方程式や不等式、2次関数、グラフなど中学から高校2年レベルの数学知識でも応用上有用な場面は多く、今まで気づけなかった数学の汎用性に驚くかもしれない。例題を学ぶとき、鉛筆を手に実際に計算しながら丁寧に読み進めると理解しやすい。納得！わかったと感じたときの爽快感も味わってほしい。

科目名 地域マーケティング  
Title Regional Marketing  
科目区分 地域づくり基礎科目

担当教員  
教授 坪井 明彦 ( ツボイ アキヒコ )

担当教員との連絡方法

E-Mail

| 配当年次 | 単位区分 | 単位数 | 開講時期 |
|------|------|-----|------|
| 2    | 選択   | 2   | 後期   |

## 目的

地域マーケティングとは、まちづくりや地域の問題解決、地域活性化のためにマーケティングの理論や技法を適用することである。前半は標的市場の選定とマーケティング・ミックスについて解説し、マーケティングの基本的な考え方を理解することを目的とする。中盤から後半は、それらの考え方をどのようにまちづくりに用いていくかを、国内外の事例を交えて解説していく。  
もちろん、企業のマーケティング理論や技法をすべてそのまま地域のマーケティングに適用できるというわけではなく、地域ならではの問題や困難というものもあるが、自治体の政策や地域づくりにマーケティングの考え方を取り入れる意義やメリットを理解してもらいたい。

## 達成目標

自治体や地域の団体などの地域づくりや地域活性化のための活動を、ターゲットやマーケティング・ミックスといったマーケティングの考え方をを用いて整理できること。  
また、それに対して問題点や改善点など自分なりの考えを持てるようになること。

## スケジュール

- 第1回 インタロダクション 講義概要、スケジュール、評価方法等、地域マーケティングとは  
第2回 マーケティング・ミックス(1) マーケティング・ミックスの中の顧客価値の創造について理解する  
第3回 マーケティング・ミックス(2) マーケティング・ミックスの中の顧客価値の伝達・提供の方法について理解する  
第4回 標的市場の選択 セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングについて理解する  
第5回 地域ブランド(1) 地域ブランド論の基礎として、ブランドの概念や機能について理解する  
第6回 地域ブランド(2) 地域ブランドの概念と構成について理解する  
第7回 地域ブランド(3) 地域ブランド・コンセプトの開発におけるアプローチの方法について理解する  
第8回 買い手の購買行動 地域を購買する(選択する)プロセスを理解し、それへの対処方法を考える  
第9回 産業の活性化(1) 地域活性化のための地域産業の重要性を理解する  
第10回 産業の活性化(2) 地域産業の活性化の方法として、どのような方法があるかを理解し、その方法を考える  
第11回 産業の活性化(3) 地域の事業者の発展のために、地域内で生産される商品の販売支援策としてどのような方法があるかを理解する。  
第12回 市民誘致 地域活性化のための市民誘致の重要性と方法を理解し、その方法について考える  
第13回 ビジター誘致 地域活性化のためのビジター誘致の重要性と方法を理解し、その方法について考える  
第14回 地域マーケティングの主体 地域マーケティングの主体として、どのような存在があり、それぞれの役割について考える  
第15回 地域住民の誇りの創造 地域住民が地域に誇りを持ち、地域づくりの担い手となるためには何が必要かを考える

## 教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。

参考書 佐々木茂ほか(2014)『地域マーケティングの核心』同友館、P・コトラーほか(1996)『地域のマーケティング』東洋経済、和田充夫ほか(2009)『地域ブランドマネジメント』有斐閣、ほか

## 授業外での学習

次回の授業範囲に関連する項目について予習しておくこと。また、授業後は必ず提示した資料に目を通し、学習内容の定着を図ること。

## 評価方法

定期試験と受講状況(平常点)を70%と30%の割合で配分し、評価する。

## 履修上の注意

遅刻は平常点から減点します。遅刻しないように気を付けてください。出席に関する不正行為を行った場合、平常点を0点とします。

科目名 アグリビジネス論  
Title Agri-Business  
科目区分 地域づくり基礎科目

担当教員  
非常勤講師 倪 鏡 (ニイ ジン)

担当教員との連絡方法

E-Mail

| 配当年次<br>2 | 単位区分<br>選択 | 単位数<br>2 | 開講時期<br>後期 |
|-----------|------------|----------|------------|
|-----------|------------|----------|------------|

## 目的

(一社)農山漁村文化協会の日中農業交流事業に携わった勤務実績と、(一社)JC総研(現JCA日本協同組合連携機構)での研究経験に基づき、現場の実態と関連分野の動向を含め、広い視野でアグリビジネスを解説する。

本講義を通じて、グローバル化が進む中で、大きな変化がもたらされている日本の農業経営及び関連産業の現状について把握する。そのうえ、将来に向けての農業・農村の発展方向及びアグリビジネスのあり方について探りたい。

## 達成目標

1)これまでの農業・農村政策の背景と問題点、2)戦後日本における食の変化とその要因、3)多様な担い手が支える農業の現場、4)農産物流通、についてしっかり理解すること。

## スケジュール

- 第1回 インタロダクション 講義の課題と進め方
- 第2回 日本の農業・農村の現状
- 第3回 日本における食の変化(1)
- 第4回 日本における食の変化(2)
- 第5回 日本における家族経営の特質と課題
- 第6回 集落営農・水田農業のコミュニティビジネス
- 第7回 農村女性の起業と地域活性化
- 第8回 農業への新規参入
- 第9回 農業の6次産業化
- 第10回 生産と消費を結ぶ流通
- 第11回 農産物流通の変化と農業への影響
- 第12回 食の安全・安心
- 第13回 外食・中食産業
- 第14回 都市と農村の交流
- 第15回 講義のまとめと意見交換

## 教科書・参考文献

教科書 特になし。講義中に資料を配布する。

参考書 必要に応じて講義中に指示する。

## 授業外での学習

講義内容を丁寧に復習すること。

## 評価方法

期末試験を主とするが、受講生の出席状況によって実施するミニテストや中間レポート(いずれも20%とする)も評価対象となる。なお、成績評価には、総授業時間数のうち、2/3以上を出席することが求められる。

## 履修上の注意

私語、遅刻など、講義の妨げとなる行為は成績評価の減点となる。

科目名 環境科学  
Title Environmental Sciences  
科目区分 地域づくり基礎科目

担当教員  
教授 飯島 明宏 ( イイジマ アキヒロ )

担当教員との連絡方法

E-Mail

| 配当年次<br>2 | 単位区分<br>選択 | 単位数<br>2 | 開講時期<br>前期 |
|-----------|------------|----------|------------|
|-----------|------------|----------|------------|

## 目的

科学技術の進歩により、私たちは便利で快適な暮らしを手に入れた。しかし、それと引き換えに様々な化学物質が環境に放出され、私たちの健康を脅かす「リスク」となっている。こともまた事実である。多様化、複雑化する環境問題を解決に導くためには、問題の原因から影響に至るメカニズムを科学的に理解し、リスクの所在を明らかにしつつ、それを低減するための政策立案へと帰結させるスキルが求められる。本講義では、群馬県庁・群馬県衛生環境研究所での環境研究の経験を活かして、環境リスクの概念とその定量方法を学び、大気環境、水環境、生態系の各分野における今日の環境保全上の課題を概観する。また、環境中における化学物質の動態を理解するための環境モデルを用いて、環境政策の効果を科学的に予測または検証するツールの仕組みについて講義する。これにより、企業や行政機関の環境管理部門において活躍できる即戦力を身につけることを目的とする。

## 達成目標

環境リスクの考え方と定量方法を学び、環境保全政策の基本となる「環境基準」の科学的根拠を理解する。大気環境、水環境、生態系の各分野における今日の環境保全上の課題を知り、これからの環境管理の方策をデザインする力を身につける。

## スケジュール

- 第1回 インタロダクション / 講義計画、評価方法等の説明、講義の導入
- 第2回 環境リスク(1) / リスクとは?
- 第3回 環境リスク(2) / しきい値ありのモデルによるリスクの定量
- 第4回 環境リスク(3) / しきい値なしのモデルによるリスクの定量
- 第5回 環境リスク(4) / 原発事故に見るリスク認知と科学情報リテラシー
- 第6回 大気環境の科学(1) / 大気環境保全政策の歩み
- 第7回 大気環境の科学(2) / 都市の大気汚染(光化学オキシダント)
- 第8回 大気環境の科学(3) / 国境を超える大気汚染(PM2.5)
- 第9回 大気環境の科学(4) / 大気環境モデリングに基づく政策立案
- 第10回 水環境の科学(1) / 水環境保全政策の歩み
- 第11回 水環境の科学(2) / 河川水の水質汚濁(BOD)
- 第12回 水環境の科学(3) / 地下水の水質汚濁(窒素)
- 第13回 水環境の科学(4) / 水生生物の汚濁耐性と多様性
- 第14回 水環境の科学(5) / 水環境保全政策の現状と課題
- 第15回 講義のまとめ

## 教科書・参考文献

教科書 指定しない

参考書 「環境科学入門」 川合真一郎 他 化学同人 2011  
「環境リスク学」 中西準子 著 日本評論社 2004 など

## 授業外での学習

事前に配布する資料に目を通し、授業範囲を把握した上で講義に出席すること。また、配布資料の他にノートを作成し、学習内容の定着を図ること。

## 評価方法

定期試験(100%)により評価する。

## 履修上の注意

化学物質の循環に関するやや専門的な内容については、配布資料や映像資料を参照しながら十分な解説を加えるが、なるべく自主的に勉強し、理解できるように努めること。

科目名 環境経済学  
Title Environmental Economics  
科目区分 地域づくり基礎科目

担当教員  
准教授 森田 稔 (モリタ ミノル)

担当教員との連絡方法

E-Mail

| 配当年次<br>2 | 単位区分<br>選択 | 単位数<br>2 | 開講時期<br>前期 |
|-----------|------------|----------|------------|
|-----------|------------|----------|------------|

## 目的

本講義では、多様な環境問題（例：地球温暖化、大気汚染、近所でのゴミ処理など）について、「環境問題の本質は何か?」、「環境問題を解決するための処方箋はあるのか?」、を経済学の観点から学び、環境問題の解決に必要な思考方法を習得することを目的とします。具体的には、環境経済学の基礎的内容を学び、環境問題の本質と解決するための経済学的処方箋について講義します。

## 達成目標

本講義を受講することで、受講生が経済学的視点から、様々な環境問題を分析・考察する基礎的ツールを習得することを到達目標とします。

## スケジュール

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ミクロ経済学の復習① : 「需要・供給モデル」 & 「余剰」
- 第3回 ミクロ経済学の復習② : 「市場メカニズム」 & 「余剰分析」 (1)
- 第4回 ミクロ経済学の復習③ : 「市場メカニズム」 & 「余剰分析」 (2)
- 第5回 「環境問題」と「外部性」
- 第6回 規制的手段 : 「直接規制」
- 第7回 経済的手段 (1) : 「ピグー税」 & 「ピグー補助金」
- 第8回 政策手段の「選択基準」と「選択決定」 (1) : 「限界費用均等化原理」
- 第9回 【中間テスト】
- 第10回 政策手段の「選択基準」と「選択決定」 (2) : 「費用効率性」基準による環境政策の評価
- 第11回 環境税の副次的効果 : 「ポーター仮説」 & 環境税の「二重の配当」
- 第12回 経済的手段 (2) : 「コースの定理」と「直接交渉」
- 第13回 経済的手段 (3) : 「排出量取引制度」 (1)
- 第14回 経済的手段 (4) : 「排出量取引制度」 (2)
- 第15回 「共有資源/公共財とフリーライダー問題」

## 教科書・参考文献

- 教科書 日引聡・有村俊秀 著 (2002) 『入門 環境経済学』、中公新書。(ただし、本講義ではレジユメを配布しますので、必要に応じて購入してください。)
- 参考書 栗山浩一・馬奈木俊介 著 (2016) 『環境経済学をつかむ (第3版)』、有斐閣。

## 授業外での学習

毎回、講義前までに1)教科書の指定箇所と2)講義資料によく目を通し予習した上で、講義に参加すること。また、必要に応じて課題を出す場合があります。

## 評価方法

中間試験 ; 50%、 期末試験 ; 50%

## 履修上の注意

「ミクロ経済学」の知識を持っていることが望ましいですが、本講義内でも必要なミクロ経済学の内容を復習しますので、心配せずに履修してください。また、できるだけ数式は使わず、図を用いて講義を行います。

科目名 人類生態学  
Title Human Ecology  
科目区分 地域づくり基礎科目

担当教員

担当教員との連絡方法

( )

E-Mail

配当年次  
2

単位区分  
選択

単位数

開講時期

## 目的

フィールドで得られた経験とデータを基礎にして、講義では生態学の基礎概念をしっかりとおさえながら、必要な生物学や人口学の知識を説明する。生態学の大きな特徴の一つは、総合の科学として全体性を見失わないことであり、人間と環境との相互関係(人類生態学)を総合的に説明する。人類進化の視点から地球環境と人類の関係を変化してゆく時間軸の中でとらえ、人類の将来について考える。生態系の中の人間、人間の生存と健康、人口からみた人間、環境問題と人間というテーマに従って、人類生態学の主要な問題を検討し、映像資料を活用して人類の様々な姿を紹介する。

## 達成目標

人間と環境との関係というテーマについて、人類の特徴を明らかにすることで、多様性の高い人類の生態を理解する。総合性の視点を重視して、現代の環境問題の根本原因を考察し、自分で問題を考え行動するような能力を得るのが本講の到達目標の一つである。

## スケジュール

- 第1回 インタロダクション 講義概要、スケジュール、評価方法等
- 第2回 人間と環境 環境認識、環境の多層構造、環境の構成要素、生物学的環境要因
- 第3回 生態学と人類 生態系の構造と機能、人間個体群、人類進化と環境要因
- 第4回 農耕起源 食物生産の開始、農耕起源地、農耕文化、古代文明
- 第5回 人間の生活 居住場所、社会集団、婚姻システム、生業
- 第6回 身体適応 日照、有害紫外線、ビタミンD、気温、湿度、成長パターン
- 第7回 行動の生態学 生業活動、労働時間、エネルギー効率
- 第8回 食と栄養 世界の主食、食文化、栄養素、栄養欠乏、栄養生態学
- 第9回 病気の生態学 環境と病気、伝染病、パンデミック、エマージングウイルス
- 第10回 人口変動と人口問題 人口変化・急増、人口支持力、人口転換、出生率、死亡率、人口減少、少子高齢化
- 第11回 エネルギーと資源 資源枯渇と環境破壊、エネルギー利用、成長の限界、自然エネルギー
- 第12回 ライフスタイルと環境 大量生産、大量消費、大量廃棄、先進国と途上国
- 第13回 地球環境問題 酸性雨、オゾン層破壊、生態系の破壊、生物多様性、異常気象
- 第14回 地球温暖化 地球サミット、IPCC、京都議定書、温室効果ガス、排出削減
- 第15回 まとめ

## 教科書・参考文献

教科書 大塚柳太郎・河辺俊雄ほか『人類生態学 [第2版]』東京大学出版会 2012年

参考書 なし

## 授業外での学習

今回の授業範囲に関連する項目について、指定した教科書・参考書をよく読み、予習しておくほか、新聞やニュースなどからも積極的に情報収集すること。また、授業後は必ずノートや配付資料に目を通し、学習内容の定着をはかり授業内テストに備えること。

## 評価方法

授業内テスト(60%)および受講状況(40%)に基づいて総合的に判断する。  
※授業内テストは30分で3回行う。テキスト・配付資料・自筆ノートを参照して、300字程度のプレゼンテーション用スピーチ原稿作成のスキル向上も目的の一つ。なお、定期試験やレポートは実施しない。

## 履修上の注意

講義の時には上記のテキストを持参すること。  
具体的な事実に基づく知識が重要なので、映像資料(ブルーレイ・DVD)を随所に使って講義を行う。

科目名 高齢者福祉論  
Title Elderly Welfare  
科目区分 地域づくり基礎科目

担当教員  
教授 熊澤 利和 (クマザワ トシカズ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

| 配当年次<br>2 | 単位区分<br>選択 | 単位数<br>2 | 開講時期<br>前期 |
|-----------|------------|----------|------------|
|-----------|------------|----------|------------|

## 目的

高齢者福祉を学ぶということは、人が「老いる」ということの理解の上に成立するものであると考える。ケアを享受する高齢者像がみえる高齢者保健福祉の施策を考えていきたい。  
人は成長発達し続ける存在であると考えられることができる。ケアの受け手としての存在にとどまらず、相互の関係において、学習・成長する存在として高齢者を捉え、政策を考えられることが望ましい。

## 達成目標

- ① 老年期の発達課題を踏まえ、高齢者の特徴が理解できる。
- ② 我が国の現在の介護保険制度、医療制度について理解できる。
- ③ ライフサイクルにおける「老い」に対する理解を踏まえ高齢者及びその家族への支援を考えることができる。
- ④ 我が国の高齢者保健福祉政策の課題について述べることができる。

## スケジュール

- 第1回 高齢者福祉の理念 高齢者の身体的・精神的・社会的特徴 発達課題、等
- 第2回 世界に他に類を見ない急速な高齢化を遂げたわが国の課題の確認、高齢者を取り巻く問題
- 第3回 高齢者保健福祉施策の変遷 (1) 戦後、老人福祉法成立以降の高齢者福祉施策の特徴
- 第4回 高齢者保健福祉施策の変遷 (2) 1989年以降 (高齢者保健福祉十力年戦略等) 以降の高齢者福祉施策の特徴
- 第5回 高齢者保健福祉施策の変遷 (3) 2000年以降の高齢者福祉施策の特徴
- 第6回 介護システムと介護保険：介護保険制度と地域包括ケアシステム (1)
- 第7回 介護システムと介護保険：介護保険制度と地域包括ケアシステム (2)
- 第8回 介護システムと介護保険：介護保険制度と地域包括ケアシステム (3)
- 第9回 認知症高齢者の特徴とケア (1) 認知症高齢者の特徴
- 第10回 認知症高齢者の特徴とケア (2) 認知症高齢者と家族への支援
- 第11回 高齢者虐待の現状と課題
- 第12回 高齢者の人権と成年後見制度の課題
- 第13回 高齢者を取り巻く環境とターミナルケア (1)
- 第14回 高齢者を取り巻く環境とターミナルケア (2)
- 第15回 まとめ：「老年期」としての統合 / 発達課題としての統合への支援

## 教科書・参考文献

教科書 開講時に指示をします

参考書 国民の福祉の動向  
コスガ 聡 『全国認知症カフェガイドブック-認知症のイメージを変えるソーシャル・イノベーション』

## 授業外での学習

講義時に、文献、事前学習の内容を提示するので、予習をして講義に望むこと。また事後学習に対しては、毎回の講義時にテーマを提示するので、それについて学習をすること。

## 評価方法

期末試験(100点満点)  
※2/3以上の出席がない場合、大学に規定に基づきE評価とする。

## 履修上の注意

初回到講義の進め方、評価など履修上重要なことを説明します。  
日頃から高齢者福祉関連のニュースに目を通すことを勧めます。  
受講までに履修しておくことが望ましい科目は、地域医療保健論です。  
講義の妨げとなる行為をした場合、不合格とする場合があります。

科目名 児童福祉論  
Title Child and Adolescent Social Work  
科目区分 地域づくり基礎科目

教授 原 史子 (ハラ アヤコ) 担当教員 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 2 単位数 2 開講時期 前期

## 目的

こんにちの日本社会では、育児不安・児童虐待・子どもの貧困など、子どもたちの成長を阻害しかねない深刻な問題が生じている。本講義では、児童福祉実践を念頭におき、子どもや子育てをめぐる現代の社会環境を理解し、児童家庭福祉の理念や法制度、具体的展開および方法について学ぶ。児童家庭福祉の対象者の社会的背景や家族的背景を関連づけ理解し、支援のあり方を検討する。

## 達成目標

- ・ 児童の権利および「児童の最善の利益」の内容を説明することができる。
- ・ 児童虐待・子どもの貧困等の社会問題について、どうして生じているのかという観点から多面的に論じることができる。
- ・ 児童福祉政策の歴史的展開を学び、今日的な課題と結び付けて説明できる。

## スケジュール

- 第1回 インタロダクション(講義概要、授業の進め方、評価方法、教科書・参考文献の紹介等)
- 第2回 子ども・家庭を取り巻く社会環境と児童家庭福祉二ース
- 第3回 児童福祉の定義・対象・育成責任
- 第4回 子ども観の変遷と児童の権利保障および児童福祉の理念
- 第5回 児童福祉の発展過程①欧米の児童福祉の発展過程
- 第6回 児童福祉の発展過程②児童福祉法制定以前
- 第7回 児童福祉の発展過程③児童福祉法制定～1990年まで～
- 第8回 児童福祉の発展過程④1990年代以降から今日まで～
- 第9回 児童福祉の法・制度
- 第10回 児童福祉の実施機関①児童相談所の役割と機能について
- 第11回 児童福祉の実施機関②児童相談所と他機関・施設等との連携
- 第12回 児童福祉の現状と課題①児童虐待
- 第13回 児童福祉の現状と課題②社会的養護
- 第14回 児童福祉実践の基本的視点および児童福祉の展望
- 第15回 まとめ

## 教科書・参考文献

- 教科書 社会福祉学習双書編集委員会編 『社会福祉学習双書2021 児童家庭福祉論』 全国社会福祉協議会
- 参考書 『社会福祉小六法』 その他は初回講義で提示

## 授業外での学習

- ・ 教科書の指定箇所に通し、授業のトピックを把握した上で講義に出席すること。
- ・ 授業期間中にレポートを課す(詳細は後日提示する)。
- ・ 日常的に子どもや子育てに関わる新聞記事、ニュースに関心を払うこと。

## 評価方法

定期試験60%、中間レポート20%、受講状況(コメントシート)20%の割合で総合的に評価する。

## 履修上の注意

- ・ 講義中の私語・携帯電話の使用、及び遅刻・途中退室等は厳禁。

科目名 日本文化論  
Title Japanese Culture  
科目区分 地域づくり基礎科目

担当教員  
名誉教授 千葉 貢 (チバ ミツギ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

| 配当年次 | 単位区分 | 単位数 | 開講時期 |
|------|------|-----|------|
| 2    | 選択   | 2   | 前期   |

## 目的

文化・教養は、暮らしと共に息づいている様々な具象である。無意識のうちに行う手振り身振りの所作や仕草、表現、礼儀作法、しきたり、交わす言葉も文化・教養である。暮らしの様式や行動の規範、原理原則を織りなす文化・教養は、都市や伝統的な生業を営む農山漁村にも、「近代化」を目指してきた明治以降の体制や制度、社会のもとに於いても絶えることがない。例えば、人々には何かにつけて「御陰様で...」、「お互い様ですから...」などと言って御辞儀を繰り返すことへ、「どこへ」「ちよっとそこまで」、「今日はいい天気で、お日柄もよく」、「寒くなりましたね(天候や時節のこと)」と挨拶を交わす。時には、「可惜(あつたら)ものを」と詠嘆する。こうした習慣も尊い文化・教養である。これらを育む暮らしや習慣は、風土や気候、地域によって異なる。様々な文化・教養の歴史や実態、特性などについての理解と再認識を促し、文化・教養の尊厳を講究したい。

## 達成目標

当講義に於ける達成目標は、目的の項に記載したとおり、「人々に宿っている文化・教養、地域に根ざしている文化・教養、継承されている数々の文化・教養を具体的に検証しその本質や特性、影響などについて考察することによって、文化・教養と自己の相関関係を自覚させたい。すでに血肉化している文化・教養、息づいている文化・教養の生態を理解し、自己との不可分な文化・教養の尊厳を認識して貰えるよう啓蒙したい。

## スケジュール

- 第1回 日本文化・教養と近代化、地方・田舎と都市・都会 --比較文化論
- 第2回 「可惜(あたら)もの」「御陰様で」「すみません」「世間体」などの言語文化
- 第3回 化粧、刺青(入れ墨)、瘦身、整形、体操などの身体加工の文化
- 第4回 泣く、微笑、笑い、表情、仕草、所作、手振り身振りなどの身体技法の文化(1)
- 第5回 正座、柔道、剣道、相撲(角力)、能、舞い、ナンバ(摺り足)などの身体技法(感覚)の文化(2)
- 第6回 装道(衣装)、華道、茶道、香道、儀式などの型(定形)の文化
- 第7回 草仮名(女手)、書道、盆栽、池泉回遊式庭園、床の間、欄間などの曲線の文化
- 第8回 障子、襖(ふすま)、墨絵、燈火(照明)などの濃淡・陰翳(影)の文化
- 第9回 月見、花見、雪見、紅葉狩り、星祭り、花火、蛸追いなどの眺めの文化
- 第10回 焼く、煮る、蒸す(蒸かす)、炊く、炒める、盛り合わせ、付け合わせ、こりこり(食感)などの食文化
- 第11回 耕す、植える、刈る、割る、摺る、挽く、絞る、煉る、播くなどの農耕文化
- 第12回 結(ゆい)、無尽、講、早苗祭り、祭り、道普請(協働)、畦(あぜ)さらいなどの共同体の文化
- 第13回 南部曲がり家、大和寄せ棟造り、中門造り、環濠住宅、檜ぐね(いぐね、防風林)などの住居の文化
- 第14回 お宮参り、誕生祝い、入学式、卒業式、成人式、結婚式、還暦祝いなどの通過儀礼の文化
- 第15回 生命科学、生物多様性、環境破壊、機械的産業社会、人の無機質化-文化教養の尊厳に目覚めて(レポート、試験)

## 教科書・参考文献

教科書 指定しません。

参考書 『身体の零度 - 何が近代を成立させたか』三浦雅士 講談社(選書メチエ)1996年  
『風土の日本 - 自然と文化の通態』オギユスタン・ベルク(篠田勝英訳)ちくま学芸文庫 1992年

## 授業外での学習

必要に応じて配付したプリント(文章もの)は必ず通読し、意見や感想、質問事項などをメモしておくよう心がけること。また、設問事項や問題文を記載した自家製のプリントには、それぞれ解答を記入、あるいは記述しておくよう心がけること。さらには、スケジュールに掲げた各種の事項についての下調べも怠らないこと。

## 評価方法

受講の状況(小テストの結果など30%)、レポートの形式や内容、定期試験の結果(70%)で判定し、最終的な評価(評点)を行います。

## 履修上の注意

教科書の代わりに、必要に応じてプリント(コピー)を配布します。授業には積極的に出席し、よくノートに書き込むように心がけて下さい。また、スケジュールに掲げた項目を参考にして、レポートの作成にも心がけて下さい。

科目名 文化社会学  
Title Cultural Sociology  
科目区分 地域づくり基礎科目

担当教員  
非常勤講師 高橋 かおり ( タカハシ カオリ )

担当教員との連絡方法

E-Mail

| 配当年次<br>2 | 単位区分<br>選択 | 単位数<br>2 | 開講時期<br>後期 |
|-----------|------------|----------|------------|
|-----------|------------|----------|------------|

## 目的

文化社会学は、社会学の中で比較的新しい分野であり、統合した学説史や理論はあまり共有されていない。だからこそ、多様な解釈や議論が行われている興味深い分野である。本講義では、文化と社会の関係について、創造・流通・受容からの過程を追うことで、そのあり方について理解し、実生活の文化現象をとらえる際の手がかりを学ぶ。ここでいう文化とは、生活文化やポピュラーカルチャー、芸術作品など様々なものを前提としている。また、現代的な文化のみならず、歴史的・伝統的な文化も射程に入る。これらの紹介や議論を通じて文化、あるいは文化的生産物が社会学の中でどのように語られ、解釈されてきたか、その歴史を振り返りながら社会学的に考察する。

## 達成目標

- ・ 文化を相対化し、社会と文化のかかわりを俯瞰しつつも、接近できる方法を学ぶことを目的とする。
- ・ 社会学における文化に関する議論を学習する。
- ・ 現代社会における文化のあり方を考え、議論できるようになる。

## スケジュール

- 第1回 インタロダクション：「文化のダイヤモンド」概念の紹介、文化社会学とは
- 第2回 文化とは何か①：文化社会学の登場と文化概念の受容—遊びから考える
- 第3回 文化とは何か②：異文化との遭遇—文化人類学からの知見、オリエンタリズム
- 第4回 文化とは何か③：戦前日本の文化—文明開化、日本文化と西欧化
- 第5回 文化とは何か④：生活文化と階級文化—ブルデューの研究から
- 第6回 文化とは何か⑤：ベツカーの芸術世界論
- 第7回 文化と制度①：政治と文化—カルチュラルスタディーズ・サブカルチャー
- 第8回 文化と制度②：産業と文化—文化産業と消費社会
- 第9回 文化と制度③：ジェンダーと文化
- 第10回 文化と制度④：若者と地方文化 / 都市文化
- 第11回 文化と制度⑥：エスニシティとグローバリゼーション
- 第12回 文化とのかかわり方①：観客・読者の創造性—観光とメディアから考える
- 第13回 文化とのかかわり方②：身体文化—パフォーマンスの視点から
- 第14回 文化とのかかわり③：文化は社会を映す鏡？—作品の読み解きを考える
- 第15回 これまでのまとめ—文化と関わって生きる

## 教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。

参考書 吉見俊哉、2018『現代文化論』有斐閣  
そのほか、参考文献は講義中に適宜紹介する。

## 授業外での学習

授業中に参考となる資料、webサイト等を紹介するので、それを読んでくること。

## 評価方法

中間レポート ( 40% ) と期末試験 ( 60% ) によって評価する。

## 履修上の注意

様々な資料・文献・事例を紹介するため、それら積極的に読み込み、考えられる学生を歓迎する。また、履修者の興味関心に応じて取り扱うトピックに変更が生じる場合もある。

科目名 地域史史料講読  
Title Readings of Japanese Regional Historical Document  
科目区分 地域づくり基礎科目

教授 西沢 淳男 (ニシザワ アツオ)  
担当教員 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 2 単位区分 単位数 開講時期  
2 選択 2 前期

## 目的

歴史は、様々な史料により明らかにされた事象をもとに組み立てられたものです。地域史を知るには、史料を紐解かなくてはなりません。

そこで、本講義では近世(江戸時代)の地域社会を知ってもらうための史料を講読します。リアリティーをもつてもらうために、くずし字で書かれた古文書のコピーを提示したりしますが、古文書を読むわけではなく、常用漢字におこしたものを読みます。文章は純粋な漢文ではありませんが、漢文調で現代とは少し異なった読み方や用法がありますので、慣れしてもらいます。

本講義では、単に史料を読む・読めるというだけでなく、史料から何がわかるのか、その史料の社会的背景や歴史事象など江戸社会を楽しく知ってもらいます。史料講読は、一にも二にも慣れです。

## 達成目標

漢文調の翻刻史料をある程度読める(音読)でき、内容を理解できるようになり、地域史研究・調査にも応用できるようにする。

## スケジュール

- 第1回 開講ガイダンス： ガイダンスと講義計画・評価方法について
- 第2回 古文書・史料とは： 史料、旧字・異体字、漢文調とはなにか
- 第3回 女通手形と往来手形： 江戸時代の旅とは
- 第4回 寺子屋と教育： 子供の教育 【VTR】 予定
- 第5回 寺子屋： 寺子屋の掟
- 第6回 年貢割付状： 江戸時代の税の仕組み
- 第7回 年貢皆済目録： 江戸時代の税の仕組み
- 第8回 宗門人別帳： 家と家族
- 第9回 寺請証文： 江戸時代の壇家制度
- 第10回 離縁状： 離婚と女性 【VTR】 予定
- 第11回 老いと相続： 農家の相続と親子契約 【VTR】 予定
- 第12回 村の災害： 台風が村を襲ったとき
- 第13回 村の事件： 村内のトラブル
- 第14回 金子借用証文： 借金と金利の仕組み
- 第15回 まとめ： 復習と試験について

## 教科書・参考文献

教科書 テキストはありません。適宜プリントを配布します。

参考書 『国史大辞典』(吉川弘文館)、『日本国語大事典』(小学館)  
『大漢和辞典』(大修館書店)他、古文書辞典類

## 授業外での学習

講義の性格上事前の学習は、当該回のタイトルについて用語を調べ・理解しておくこと。主には、漢文調の読み方や現在とは違う言葉遣い、意味などを十分に復習し、次回の講読につながるようしておくこと。

## 評価方法

試験は、指定したものを持ち込み参照可で実施(61%)、毎回のコメントペーパー(3点×13回、39%)。

## 履修上の注意

出席は厳密に取ります。入室時間5分経過後から遅刻、30分過ぎからは欠席扱いとなります。音読がありますので、しっかり授業に参加して下さい。

科目名 コミュニティ振興論  
Title Community Activation Studies  
科目区分 地域づくり基礎科目

担当教員  
教授 佐藤 彰彦 ( サトウ アキヒコ )

担当教員との連絡方法

E-Mail

| 配当年次<br>2 | 単位区分<br>選択 | 単位数<br>2 | 開講時期<br>後期 |
|-----------|------------|----------|------------|
|-----------|------------|----------|------------|

## 目的

暮らしの現場で、コミュニティの形成や維持・強化、あるいは、コミュニティベースの地域振興が展開される過程においては、当事者どうしの利害関係や政治・行政への接合にかんする問題など、多種多様な障壁や課題が存在する。本講義では、地域コミュニティが直面する構造的な問題を捉えながら、一方で、そうした問題に対処してきた/している具体的な取り組み事例を紹介し、地域コミュニティの振興/実践にかかる学際的かつ実学的な知見やノウハウを習得することを目的とする。  
また、講義のなかでは、政策系シンクタンクでの勤務経験を活かして、地域社会や政策現場における今日的課題等について解説をおこない、地域振興等の場面で応用可能な実学の習得を目指す。

## 達成目標

事例に学びながら自分が興味・関心を持てるテーマや分野を見つけ出し、そこに内在している社会構造的な課題を理解し、かつ、地域コミュニティの振興/実践にかかる理論や方法論について理解・説明・実践できることを目標とする。

## スケジュール

- 第1回 自分たちの暮らしから地域～社会を考える
- 第2回 地域とは何か/コミュニティとは何か?—東日本大震災からみるまちづくりの今日的課題ほか
- 第3回 地域を取り巻く社会経済状況の変化①—住民運動から新しい社会運動へ(協働の観点から)ほか
- 第4回 地域を取り巻く社会経済状況の変化②—地域コミュニティを取り巻くアクターと利害ほか
- 第5回 地域コミュニティの振興/実践にかかる理論・方法など①—計画主体形成論
- 第6回 地域コミュニティの振興/実践にかかる理論・方法など②—住民参画とエンパワーメント
- 第7回 地域コミュニティの振興/実践にかかる理論・方法など③—コミュニティ実践における信頼と協力
- 第8回 インナーシティにおける女性たちの取り組み—住民活動と政治・行政(大田区)
- 第9回 まちづくり協議会(宝塚ほか)という試み—住民自治とコミュニティ
- 第10回 コミュニティへの権限委譲(飯館村ほか)—地域別計画への参画から自発的活動の展開へ
- 第11回 コミュニティベースの医療福祉活動(パーソナルネットワークの活用)
- 第12回 中心市街地のまちづくり(青森、長浜、丸亀ほか)
- 第13回 女性農業者による6次産業化(福島市)—その光と影
- 第14回 事例をふり返ってコミュニティをめぐる諸問題を考える
- 第15回 まとめ—地域から社会を考える/変える

## 教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。講義のなかで随時、資料を配付する。

参考書 講義の進行状況に応じて、適宜紹介する。

## 授業外での学習

紹介した参考文献(とくに基本理論にかんする論文など)については目を通すことが望ましい。

## 評価方法

①講義への参加態度・貢献度+コメントシート【10~20点】、②中間レポート【30点】、③期末試験(または期末レポート。試験実施の場合、持込不可)【50点】。

## 履修上の注意

「日常的な身の回りから、コミュニティや社会をとらえる」習慣を身につけてほしい。授業で触れる基礎理論や社会的背景等を、各自の関心事や(卒業)研究などに引きつけて自分なりに解釈することで他分野の理解も深まると期待する。

科目名 地方分権と社会教育  
Title Decentralization and Social Education  
科目区分 地域づくり基礎科目

担当教員 櫻井 常矢 ( サクライ ツネヤ ) 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 2 単位区分 選択 単位数 2 開講時期 後期

### 目的

社会教育とは、具体的な法制度とそれに基づく行政システム、施設、職員、資格等を有すると同時に、地域住民の主体的な参加や活動としても現出する。社会教育はまた、環境問題、子育て、地域文化、福祉、健康などの地域課題の克服に向き合うことから、その学習の方法、内容の面でも実に多様である。他方で、近年進む規制緩和や分権改革の中で様々な課題にも直面している。  
本講義では、社会教育の法制度や施設運営のあり方、戦後の社会教育の変遷などを詳説しながら、現代社会教育が直面する課題を明らかにする。その上で、分権時代に求められる自治体社会教育のあり方について各地の事例に学びながら検討する。

### 達成目標

本講義では、①社会教育関連法規とその原理を理解できるようになること、②社会教育行政をめぐる現代的課題やこれからの方向性について自分なりの考えが整理できるようになることを目標とする。

### スケジュール

- 第1回 インタロクシオン : 講義概要 / スケジュール / 評価方法等
- 第2回 社会教育の諸相 : 公的社会教育 / 地域社会教育 / 市民活動
- 第3回 社会教育法制度 ( 1 ) : 社会教育法解説
- 第4回 社会教育法制度 ( 2 ) : 社会教育法の原理とその課題
- 第5回 社会教育と生涯学習 : その違いと重なり / 自治体行政の対応
- 第6回 自治体社会教育の現状と課題 : 住民参加 / 市町村合併
- 第7回 社会教育の歴史 ( 1 ) : 戦前の社会教育
- 第8回 社会教育の歴史 ( 2 ) : 戦後の社会教育
- 第9回 社会教育の歴史 ( 3 ) : 高度経済成長期の社会教育
- 第10回 社会教育施設の運営・事業 ( 1 ) : 社会教育施設のNPO運営
- 第11回 社会教育施設の運営・事業 ( 2 ) : 社会教育職員の専門性
- 第12回 規制緩和・地方分権と社会教育 ( 1 ) : 地域自治組織と公民館の役割・再編
- 第13回 規制緩和・地方分権と社会教育 ( 2 ) : 図書館の民間運営をめぐる可能性と課題
- 第14回 社会教育行政とコミュニティ支援 : 中間支援施設 ( 組織 ) の展開
- 第15回 まとめ : 「権利としての社会教育」再考

### 教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。

参考書 下記のほか適宜紹介する。社全協編『社会教育・生涯学習ハンドブック第9版』, エイデル研究所, 2017年、松田武雄編著『社会教育・生涯学習の再編とソーシャルキャピタル』大学教育出版, 2012年

### 授業外での学習

次回の講義に関連する内容について講義内で指定 ( 配布 ) した資料など予習をしておくほか、新聞やニュースなどからも積極的に情報収集すること。また講義後は、必ずノートや配布資料に目を通し学習内容の定着に取り組みむこと。

### 評価方法

受講状況並びに小テスト・レポート等の講義期間中の課題 ( 40% ) そして定期試験 ( 60% ) をもとに総合的に評価する。

### 履修上の注意

特に教科書は使用せず適宜必要な資料等を多く配布するため、各自がよく整理をして積極的に講義に参加すること。

科目名 スポーツ政策論  
Title Sports Policies  
科目区分 地域づくり基礎科目

担当教員  
教授 高橋 伸次 ( タカハシ シンジ )

担当教員との連絡方法

E-Mail

| 配当年次<br>2 | 単位区分<br>選択 | 単位数<br>2 | 開講時期<br>前期 |
|-----------|------------|----------|------------|
|-----------|------------|----------|------------|

## 目的

スポーツ行政は、人びとのスポーツ諸活動を公共的福祉の観点から捉え、法の規制範囲においてそれらに関わる諸条件(人的・物的・制度的等)を整え、スポーツを広く普及奨励することを目的としている。そして、それは個々のスポーツ権が保障される社会にあって、欠くことのできない公的作用として位置づけられている。本講義では、地域・コミュニティを主たる基盤にして生起するスポーツに関する行政について、そのしくみや意味・機能を理解し、豊かで活力ある社会づくりのためのスポーツ行政を考える。

## 達成目標

とくに戦後日本のスポーツ振興のあゆみを、急激な社会状況の変化とそこでの行政施策から理解し、これからの社会に求められるスポーツのあり方について展望できるようになる。

## スケジュール

- 第1回 ガイダンス 講義概要、スケジュール、評価方法等
- 第2回 スポーツ振興の国際的流れ Sport for All運動、国際憲章、スポーツ人口の国際比較
- 第3回 スポーツの現場を考える ビデオ学習
- 第4回 スポーツ行政のねらいと目的 スポーツ行政の関係法令、スポーツ振興法
- 第5回 スポーツ行政のしくみ スポーツ振興体制、国の行政組織、地方の行政組織
- 第6回 わが国の体育・スポーツ振興のあゆみ① 戦後の復興とスポーツ
- 第7回 わが国の体育・スポーツ振興のあゆみ② 社会体育の振興とスポーツ振興法の制定
- 第8回 わが国の体育・スポーツ振興のあゆみ③ 高度経済成長とスポーツ、東京オリンピック
- 第9回 東京オリンピックを考える ビデオ学習
- 第10回 わが国の体育・スポーツ振興のあゆみ④ 21世紀に向けたスポーツ振興方策
- 第11回 地方のスポーツ行政 群馬県総合スポーツセンターにおける現場学習
- 第12回 スポーツによる地域づくり 地域開発とスポーツの機能
- 第13回 スポーツ行政と地域スポーツ施策の課題 スポーツ振興基本計画、総合型地域スポーツクラブの育成
- 第14回 諸外国のスポーツビジョン アメリカ、イギリス、ドイツ、カナダ、オーストラリア
- 第15回 まとめ

## 教科書・参考文献

教科書 適宜指示する。

参考書 適宜指示する。

## 授業外での学習

新聞、雑誌、テレビ等のスポーツ情報の収集。

## 評価方法

中間まとめテスト(30%)、期末テスト(70%)

## 履修上の注意

スポーツ指導者をはじめとして、地域スポーツ振興の担い手となることに意欲的な学生の参加を希望する。

科目名 教育政策論  
Title Educational Policies  
科目区分 地域づくり基礎科目

担当教員  
准教授 吉原 美那子 (ヨシハラ ミナコ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

| 配当年次<br>2 | 単位区分<br>選択 | 単位数<br>2 | 開講時期<br>前期 |
|-----------|------------|----------|------------|
|-----------|------------|----------|------------|

## 目的

本講義は、教育行政学、教育社会学、教育制度論に基づく知識から、教育活動の枠組みとしての社会的、制度的、経営的な事項について学ぶことを目的とする。人々の学びを保障する諸条件整備のための力学と仕組みづくりを把握した上で、現代社会において教育行政機関と学校とがどのような働きをしているのかを整理し、我が国あるいは地方自治体、各地域の教育政策の方向性を研究する力を養う。加えて、諸外国の教育政策の動向を鑑み、グローバル化が進みつつ成熟された社会にとって必要な教育のあり方について考える。

## 達成目標

1. 公教育制度の原則、教育行政の組織と役割、学校組織の基礎的な知識を修得し理解している。
2. 現代の社会の状況と子どもの学びの環境の変化について説明することができ、それに伴って教育制度がどのように変革しているのか、かつ今の学校が抱えている問題は何なのか、自ら見出し論じることができる。
3. 学校と地域との連携の意義と課題、学校の危機管理の必要性と手法を、事例を踏まえながら論じることができる。

## スケジュール

- 第1回 オリエンテーション:講義の概要と進め方、評価方法の説明、公教育制度の原則、子どもと学校をめぐる状況
- 第2回 グローバル時代の教育政策①:世界の動向、今求められる「学び」とは
- 第3回 グローバル時代の教育政策②:日本はどちらに進むべきか?
- 第4回 国と地方自治体の教育行政の仕組み①:教育を受ける権利の保障、教育行政の理念と定義
- 第5回 国と地方自治体の教育行政の仕組み②:国の教育行政を担う機関
- 第6回 国と地方自治体の教育行政の仕組み③:地方の教育行政を担う機関、地方分権と地方自治体の教育改革
- 第7回 公教育制度の原則と教育費
- 第8回 学校の組織と運営①:学校と教育委員会との関係、法令からみる教職員、学校組織
- 第9回 学校の管理と運営②:学校管理・運営に関する法規と運用、学校安全管理
- 第10回 学校と地域社会①:学校と地域社会との協働をめぐる教育政策動向、意義と問題点
- 第11回 学校と地域社会②:学校と地域づくり、協働の事例(安全管理も含む)
- 第12回 学校と地域社会③:地域の教育施策や教育の諸課題を考える(ワークショップ)
- 第13回 新自由主義と教育政策の動向①:行政やNPO等による子ども支援
- 第14回 新自由主義と教育政策の動向②+ワークショップ②:学校の多様化と選択、学校改革
- 第15回 総括

## 教科書・参考文献

教科書 ・ 加藤崇英 (編著) 『新訂版 教育の組織と経営』学事出版、2017年

参考書 ・ 坂田仰 (他著) 『図解・表解 教育法規』教育開発研究所、2012年  
・ 小松茂久 (編著) 『教育行政学』昭和堂、2013年

## 授業外での学習

次回の授業範囲に関連する項目について、教科書または参考書を読んでおくこと。メディア等などによる教育政策に関わる情報を収集しておくこと。授業内で課題を提示するので、必ずやってくること(課題はワークショップ等で使用する)。

## 評価方法

小レポートやワークショップ等における課題(50%)、定期試験(50%)を基本に、総合的に判断して評価する。

## 履修上の注意

ワークショップの準備として、日頃から関連する書籍や新聞、専門誌に目を通すことを期待する。授業は、履修者とのディスカッションや小レポートを通して進めていくので、それによって講義のテーマもしくは内容が前後することがあるので、留意されたい。

科目名 社会調査演習  
Title Practice of Social Research  
科目区分 地域づくり基礎科目

准教授 田戸岡 好香 ( タドオカ ヨシカ )

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

| 配当年次<br>2 | 単位区分<br>選択 | 単位数<br>2 | 開講時期<br>後期 |
|-----------|------------|----------|------------|
|-----------|------------|----------|------------|

## 目的

本授業では、これまでの調査系・統計系授業で得てきた知識をもとに、社会調査（特に量的調査）を自分たちの手で行う。社会調査を実施するためには、先行研究を調べ、仮説を考え、調査用紙を作成し、データ分析を行うといったいくつかの段階がある。これらを授業内で体験する中で、企画力や実践力、分析能力を培っていく。社会調査の基本的知識や方法論を習得する中で、自らの関心を研究につなげていく力を身に着けることを目指す。

## 達成目標

興味・関心を実証研究という形に落とし込めるようになる。  
社会的態度を定量化して扱うことができる。  
レポートやプレゼンテーションなど、適切な形で調査結果を報告できるようになる。

## スケジュール

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 社会調査の企画と設計方法
- 第3回 先行研究の収集と検討
- 第4回 調査の企画：各自の調査案の発表
- 第5回 調査の企画：仮説構成
- 第6回 調査の企画：調査内容の決定
- 第7回 調査準備：質問文の作成
- 第8回 調査準備：調査票の構成
- 第9回 調査の実施
- 第10回 データの分析①
- 第11回 データの分析②
- 第12回 調査結果の報告の仕方
- 第13回 調査報告の準備
- 第14回 レポートの書き方
- 第15回 最終発表会

## 教科書・参考文献

教科書 教科書の指定はなく、毎回プリントを配布する。  
参考書は以下の通りだが、これ以外にも授業時に随時紹介する。

参考書 ・ 盛山和夫 (2004). 『社会調査法入門』 有斐閣  
・ 小塩真司・西口利文 (2007). 『質問紙調査の手順』 ナカニシヤ出版

## 授業外での学習

新聞などのメディア報道に注意を向けたり、書籍を読むなどして、自分の問題意識を明確にできるように努力すること。調査を滞りなく実施するために、授業外も調査準備に取り組むこと。

## 評価方法

授業への参加姿勢 (30%)、調査報告会での発表 (30%)、調査報告のレポート (40%) をもとに総合評価を行う。

## 履修上の注意

本授業は「社会調査（量的調査）」の授業内容に基づき、実際の調査を実践する。「社会調査」の授業を受講していない場合には、指定した資料や動画を見て予習をしてもらうことがある。調査はグループワークをしながら行うため、協調的・積極的に授業に参加すること。調査を実践する過程で、授業時間外の取り組みもある程度必要になる。

科目名 ファシリテーション演習  
Title Facilitation  
科目区分 地域づくり基礎科目

担当教員 櫻井 常矢 ( サクライ ツネヤ ) 担当教員との連絡方法  
教授  
非常勤講師 日本ファシリテーション協会 ( ニホンファシリ  
テーションキョウカイ )

E-Mail

配当年次  
2

単位区分  
選択

単位数  
2

開講時期  
後期

## 目的

地域住民主体の地域づくりに寄与する人材に求められる、多様な意見を引き出し調整するファシリテーションの能力を育成する。

## 達成目標

多様な人々が集まり、お互いの考えを聴き合い、語り合い、新たな価値を共創する参加型の場と機会を創ることができるよう、ファシリテーションの知識と技法を身に付けて、活用できるようになる。

## スケジュール

講義等の具体的な日程は、掲示板および第1回の授業時間内に連絡します。

第1回：オリエンテーション【2021年9月29日4限】

授業内容と進め方、自己紹介、ワークショップミニ体験、ファシリテーションガイド紹介

第2回・第3回：基本技術(1)【2021年10月13日4・5限】

アウトカムとアジェンダ、場づくり、話し合いのプロセス

第4回・第5回：基本技術(2)【2021年10月27日4・5限】

傾聴、問いかけ、収束

第6回・第7回：基本技術(3)【2021年11月10日4・5限】

見える化、構造化フレーム、プログラムデザインとアジェンダ作り(個人)

第8回・第9回：基本技術(4)【2021年11月24日4・5限】

インストラクション、ファシリテーターのマインド、アジェンダ作り(グループ検討)

第10回・第11回：実践(1)【2021年12月8日4・5限】

演習(ファシリテーター体験)第1回、第2回

第12回・第13回：実践(2)【2021年12月22日4・5限】

演習(ファシリテーター体験)第3回、振り返り、プログラムデザイン

第14回・第15回：全体のまとめ【2022年1月19日4・5限】

成果の共有と振り返り、対話

## 教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。

参考書 ちよんせいこ「人やまちが元気になるファシリテーター入門講座」解放出版社(2007年)  
青木将幸「ファシリテーションを学校に！」ほんの森出版(2018年)

## 授業外での学習

当日の学習内容について、レポート提出を課し、復習していただきます。

## 評価方法

平常点(100%)

平常点は、毎回の授業後に提出するミニッツとレポートです。

## 履修上の注意

- ①授業は2コマ連続開講します。(毎週ではありません。初日は1コマのみ)
- ②出席が前提となる授業です。

科目名 社会教育論  
Title Social Education  
科目区分 地域づくり基礎科目

担当教員  
教授 櫻井 常矢 ( サクライ ツネヤ )

担当教員との連絡方法

E-Mail

| 配当年次 | 単位区分 | 単位数 | 開講時期 |
|------|------|-----|------|
| 2    |      | 2   | 後期   |

## 目的

社会教育とは、具体的な法制度とそれに基づく行政システム、施設、職員、資格等を有すると同時に、地域住民の主体的な参加や活動としても現出する。社会教育はまた、環境問題、子育て、地域文化、福祉、健康などの地域課題の克服に向き合うことから、その学習の方法、内容の面でも実に多様である。他方で、近年進む規制緩和や分権改革の中で様々な課題にも直面している。  
本講義では、社会教育の法制度や施設運営のあり方、戦後の社会教育の変遷などを詳説しながら、現代社会教育が直面する課題を明らかにする。その上で、分権時代に求められる自治体社会教育のあり方について各地の事例に学びながら検討する。

## 達成目標

本講義では、①社会教育関連法規とその原理を理解できるようになること、②社会教育行政をめぐる現代的課題やこれからの方向性について自分なりの考えが整理できるようになることを目標とする。

## スケジュール

- 第1回 インタロダクション : 講義概要 / スケジュール / 評価方法等
- 第2回 社会教育の諸相 : 公的社会教育 / 地域社会教育 / 市民活動
- 第3回 社会教育法制度 ( 1 ) : 社会教育法解説
- 第4回 社会教育法制度 ( 2 ) : 社会教育法の原理とその課題
- 第5回 社会教育と生涯学習 : その違いと重なり / 自治体行政の対応
- 第6回 自治体社会教育の現状と課題 : 住民参加 / 市町村合併
- 第7回 社会教育の歴史 ( 1 ) : 戦前の社会教育
- 第8回 社会教育の歴史 ( 2 ) : 戦後の社会教育
- 第9回 社会教育の歴史 ( 3 ) : 高度経済成長期の社会教育
- 第10回 社会教育施設の運営・事業 ( 1 ) : 社会教育施設のNPO運営
- 第11回 社会教育施設の運営・事業 ( 2 ) : 社会教育職員の専門性
- 第12回 規制緩和・地方分権と社会教育 ( 1 ) : 地域自治組織と公民館の役割・再編
- 第13回 規制緩和・地方分権と社会教育 ( 2 ) : 図書館の民間運営をめぐる可能性と課題
- 第14回 社会教育行政とコミュニティ支援 : 中間支援施設 ( 組織 ) の展開
- 第15回 まとめ : 「権利としての社会教育」再考

## 教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。

参考書 下記のほか適宜紹介する。社全協編『社会教育・生涯学習ハンドブック第9版』、エイデル研究所、2017年、松田武雄編著『社会教育・生涯学習の再編とソーシャルキャピタル』大学教育出版、2012年

## 授業外での学習

次回の講義に関連する内容について講義内で指定 ( 配布 ) した資料など予習をしておくほか、新聞やニュースなどからも積極的に情報収集すること。また講義後は、必ずノートや配布資料に目を通し学習内容の定着に取り組みむこと。

## 評価方法

受講状況並びに小テスト・レポート等の講義期間中の課題 ( 40% ) そして定期試験 ( 60% ) をもとに総合的に評価する。

## 履修上の注意

特に教科書は使用せず適宜必要な資料等を多く配布するため、各自がよく整理をして積極的に講義に参加すること。